

知事と区市町村長との意見交換（中野区）

令和1年10月17日（木）

14時00分～14時20分

○行政部長 では知事から冒頭、一言お願いいたします。

○知事 こんにちは。酒井区長には都庁まで御足労いただきまして、ありがとうございます。東京都では今長期戦略を描くということで、各区市町村の皆様方から直接ビジョン、こういう方向でやっていきたい等、お話伺っております。短い時間ではございますが、どうぞ今日はよろしくをお願いいたします。

○行政部長 酒井区長、よろしくをお願いいたします。

○中野区長 それでは改めまして、皆さんこんにちは。よろしく申し上げます。本日、私からはスライドに映っていますけれども、この東京都の長期戦略ビジョンで、中野区が今どういうことを考えているかを簡単にお話させていただきます。

まず最初に中野区は子育て先進区というものを目指しております。この子育て先進区なんですけれども、今、近年中野の全人口に占める0歳から14歳の年少人口の割合が8.8%ということで、実は特別区の中でも最下位に近いということで、非常に年少人口が少ないのが中野区の現在の特徴になっています。この将来人口推計においても、年少人口は今後も引き続き低い水準で推移していくということで推測をしております。

この少子高齢化に伴って人口減少が進むわけですが、これをいかに食い止めて地域の活力を維持して成長させていくかということが、特別区も含めて全ての地方自治体の課題だと思っております。

中野区としては全国の自治体に先駆けて、都市型の地方自治体のロールモデルを示していきたいと考えております。

この中野区が目指す子育て先進区には2つの視点がありまして、1つ目の視点としては、区内在住の方々から子育てしてよかった、育てよかったと思っただけのまちであること。これについては子育て環境を整えて、子育て家庭の皆さんが良好な環境で子育てを行うことによって、高い満足度を実現すると。そして中野区に愛着、シビックプライドを感じていただけることを目指しています。

そして2つ目の視点としては、区外の方々から中野区で子育てしたいと思っただけ、子育て家庭から選ばれるまちということを目指しております。これは良質な子育て環境が整っていること、学区内外で知られていて、子育てなら中野区というブランドを定着させていきたいなと思っております。

このような子育て先進区をすぐには実現できるものではないのですが、段階的に進めていこうと考えております。まずは区内の子育て環境の実態を把握するために、今年度23区最大規模の子供と子育て家庭のアンケート調査を今行っております。この他、子育て家庭と私、区長の意見交換会、それからインターネットによる意見募集等も実施して、今様々な声を聞いて子育て環境の整備を目指していっています。

区長に就任して以来、様々な場面で子育て家庭の皆様との対話を続けてまいりましたけれども、子育てしやすい公園。公園の整備を望む声が結構多く寄せられています。東京都にはぜひとも複合遊具の入れ替えや、プレイパークの実施等に対する補助の新設拡充等、子供や子育て家庭の満足度が高い公園の整備に向けた取り組みへの支援をお願いしたいと思っております。

また、在宅子育て家庭の手当の支給や、家事援助支援等、在宅子育て家庭の支援、交通安全対策、防犯対策といった子供の日常生活における安全、安心の確保策、子供と親にかかる相談実施支援体制の構築。特に児童相談所の設置に向けては人的、財政的な資源の確保をしていく必要があるということなので、中野区もロールモデルとなるような、先進的な施策を検討していきたいと思っております。これらについて、ぜひ財政支援や政策助言といった支援の実施をお願いしたいと思っております。

次に防災まちづくりということでございます。東京都さんが昨年2月に公表した、地震時における地域危険度調査、これを見ると中野区内は総合危険度のランクが5。一番危ない所が4丁目、そしてランク4が18丁目あるということで、危険度ランクが高い所が多くなっています。

現在、東京都防災都市まちづくり推進計画において、整備地域のうち大和町と弥生町、この2地区では木密地域不燃化10年プロジェクトにおける不燃化特区の指定を受けて、木密事業に加えてさらに重層的に不燃化推進の取り組みを行っているところです。これまでに両地域の不燃領域率は大きく向上しているんですけども、元々危険度ランクが極めて高い大和町では、まだまだ目標の70%には到達できない状況となっています。

このプロジェクトについては令和2年度を期限とされておりますけれども、これ以降についてもぜひ制度の継続をお願いしたいと考えております。

最後に資料にはございませんけれども、無電柱化の推進についても述べさせていただきます。中野区では避難活動空間の確保や、ライフラインの安定供給に資するまちの防災性の向上や、通行の支障となる電柱を除却し、道路幅員の確保によって円滑な移動を図る、美しく良好な都市空間を創出すること等を目的として、無電柱化を進めているところであります。

また、着実な無電柱化の実行のために今年度、令和元年度中に中野区無電柱化推進計画を策定したいと考えております。無電柱化の効率化を図るために、電線共同溝法に定められた事務手続について簡素化を図っていただくことにより、効率的な事務処理に繋げてまいりたいと考えております。

また、中野区は狭隘道路や生活道路等、無電柱化の困難な地域も数多くありまして、現在は無電柱化チャレンジ推進事業の補助制度等によって支援をいただいているところです。現制度において補助対象とならない事業への支援等、補助対象の拡大及び補助率の引き上げについて要望させていただきたいと考えております。

その他、無電柱化事業は専門性が高くて、高度な知識や技術が必要とされることから、技術開発の推進やその成果の普及についても要望したいと考えております。私からのご説

明は以上でございます。

○知事 ありがとうございます。まず子育てがしやすい、育ってよかった中野ということで、私待機児童対策や人を中心とした都政ということを常々申し上げておりますので、その意味で、人を中心に指し進められる区政については共感するところが多いかと思えます。

いくつか多岐に渡ってございましたけれども、特別区の児童相談所の設置については、職員研修の受け入れから様々な支援を実施をしているところであります。今後も子供の安心、安全の確保という観点から、必要な支援や連携を図ってまいりますし、また、財源につきましても、今年度の財政調整の協議の中で議論をしてまいりたいと思えます。

それから公園の整備でありますけれども、区の公園整備事業に対しては御承知のように都市計画交付金による支援がございます。また、子供の遊び、そして体験の場を提供するプレイパーク事業等に対しましては、引き続き包括補助で支援を行ってまいります。

それから在宅子育て家庭の支えでありますけれども、区市町村の様々な取り組みの支援を都として行っております。また、全ての子育て家庭で妊娠期から継続した支援を行えるようにということで、ゆりかご東京事業、これについてはずっと市町村長の皆様方からも継続の御要望も多いところでございます。今年度からはこれまでの制度に加えて、今年度からは食事の調理を行うヘルパーさんの派遣への支援も開始をしているところであります、活用していただければと思えます。

それから子育て環境の整備に取り組む区市町村については、今後とも積極的に支援をしていくということを改めて申し上げます。

それから子供の安全と安心の確保というのは、これはもう何よりも大切なことであって、今年度からは通学路だけではなくて、学童クラブに通う道等への防犯カメラの設置も補助対象といたしております。

それから子供さんが移動する経路の安全点検も実施をしておりますので、その結果も踏まえて引き続き区と連携しながら、交通安全対策も進めてまいります。先ほども区の方で調査を行っておられるというお話は、ぜひ調査結果等も共有させていただければと思えます。

それぞれ地域の実情に応じて子育て支援の在り方も異なるわけですが、子育て支援の充実のためには、それぞれの地域が独自の創意工夫を行っていただき、それを実施する、そういう先進的な取り組み等などに対しまして、引き続き包括、補助等で支援を行ってまいるところでございます。

中野区も人口がこのところ増えているということですね。33万1,000人で、ずっと増加傾向は変わらずということですね。

それから一方で木密地域が多いというお話でございました。この改善を行うことはセーフシティ東京にとっても必要なことでございます。不燃化特区等を活用しまして、中野区では具体的には弥生町の3丁目周辺地区等で区と一緒に不燃化に取り組んでいるという例がございます。それをさらにスピードアップしたり、一層進めていくということが必要でありまして、防災都市づくりの推進計画の改定に向けた検討を進めております。

それから計画の基本的な考え方を示して区と連携させていただきながら、燃え広がらない、燃えない、そんなまちの実現に取り組んでまいりたいと存じます。もう少しペース上げるべきかなと、本当にこのところの災害はいつ何時起こるか分からないというのと、災害の強靭化、これが非常に気になるところでありまして、計画を着実に進めるだけでなく、加速する必要もあるのではないかと思います。

その意味で無電柱化に対して理解を、その必要性について御理解いただいているの、大変心強く思います。

一方でどうやって推進するかということでもありますけれども、おっしゃるようになり専門的な知識であったり、それから技術が日進月歩で変わってきておりまして、それはコスト減にも反映しているということかと思えます。

今後セーフティを実現するためにも、無電柱化を私は進めていきたいとかねがね申し上げて、都道だけではなくて、区市町村道の無電柱化を一層促進することが肝要ということでもあります。

今もお話ありましたように、非常に狭い道はかえっていろいろとこれまでの規則ルールに則るとなかなか厳しいと思われていましたけれども、逆にそういった所を安全、安心にすることが、無電柱化によって実は重要なんです。よって様々な技術を重ね合わせながら、そういった地域にこそ、木密地域の解消と、無電柱化を併せていただくと、無電柱化だけのために工事をするというのではなくて、全体的に進められるとコストも低くなり、またリスクも低くなっていくということだと思います。

平成20年度から区市町村の無電柱化事業に対しての財政支援もございます。また、平成29年度からは無電柱化チャレンジ支援事業制度を創設をいたしております。区長からもそのお話がございました。それによって計画の策定や、また無電柱化に初めて取り組む区市町村や、低コストの手法を導入しようと、それらの区市町村に対しまして財政支援と技術支援を行っております。

それから今年度からはさらに自然災害に備えるために、防災に寄与する路線の補助率の拡充ということで。無電柱化はまさしく自然災害に対しても、またお年寄りや車椅子、ベビーバギー等で通行される方々が安心して広い道幅を確保できるという様々なメリットもございます。コストが掛かるというふうに言われて、なかなか手に付かない無電柱化ですけれども、ぜひコストの縮減とともに実際に皆さんが始められると、それによってスケールメリットも得られてコスト削減にも繋がると、このように考えておりますので、中野区さんとは連携を取りながら、都内全域での無電柱化の一つのモデルになればと思っております。よろしく申し上げます。

○行政部長 酒井区長、いかがでしょうか。

○中野区長 ありがとうございます。ゆりかご東京事業は中野区は利用している方だと思っておりますが、非常に利用者の方からの評判もいいので、これはやはり子育て先進区の中でももっと充実していきたいなと思っております。ぜひそこを一緒にやっていただきたいなというところですね。

あと、台風19号で雨がたくさん降りまして、中野区はちょうど神田川とか妙正寺川が流れている区域になりますけども、今回は環七の貯水池が功を奏して水も溢れなかったということで水害はなかったわけでございます。

このように何年も掛かってやってこられた事業が何年に一度の大雨を防ぐということで、非常に有難く思っていますので、まさにこの無電柱化とこの防災まちづくりの推進においても、時間は掛かってもこれを急ぎながら、そういう災害に備えていきたいと思っていますので、ぜひそこは一緒にビジョンを共有してまちづくりを取り組んでいきたいと思えます。どうぞよろしくをお願いします。

○行政部長 よろしいでしょうか。それでは意見交換を終わらせていただきますが、最後に知事から一言お願いいたします。

○知事 ありがとうございます。中野区も密集地域が多ございますし、先ほどおっしゃいましたように、最近の災害のレベルが各段に、1段か2段、急に上がったような気がいたします。それらに備えて大規模に、例えば調整池等、時間が掛かったり、高コストのものもございませうけれども、それらも着実に進めていく。それから目の前の無電柱化等、小さいようでは実は大変大きな意味のある、そういったことも進めていく合わせ技でやっていきたいと思っておりますので、どうぞこれからも区と連携しながら、都としても安全、安心なまちづくり、セーフシティを目指していきたいと思えます。よろしくをお願いします。

○行政部長 それでは意見交換を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。